

がん患者らの声傾聴

がんの患者や経験者、その家族、遺族から病気に
関する悩みなどを聞く「がん哲学外来」が18日から、
善光寺宿坊「白蓮坊」で始まる。「死への向き合い方」
など病院外来で対応し切れない問いを深める場として



白蓮坊で打ち合わせをする中村さん(左)と
若麻續住職

白蓮坊で「哲学外来」

あすから隔月開設 精神面をケア

中村さんのがん哲学
外来「長野門前カフエ
ロータス」は、奇数月
の第3日曜日午後2時
4時に白蓮坊で開催。
がん当事者の闘病生活
に対する不安やサポー
トする家族の悩み、遺
族の悲しみなどを、中
村さんや同宿坊の若麻
續隆住職(66)、精神
ケア業務の経験者の6

がん哲学外来は、医
学博士の榎野興夫さん
が「医者とかん患者の
対話の場」として20
08(平成20)年に都
内の病院で始めた。現
在、一般社団法人がん
哲学外来の認定を受け
た拠点は全国150カ
所余。長野市内での開
催は、22年から日本
基督教団長野教会Ⅱ県
町Ⅱで隔月で開く牧師
に続き2例目となる。

中村さんは約20年前
に長野市に夫婦で移
住。夫の転勤で千葉県
に移り住み、高齢者へ

全国で広がる取り組み。がん経験者で傾聴ボランティア
アの中村純子さん(64)Ⅱ戸隠栃原Ⅱが「苦しみや悲
しみを抱える人たちに寄り添いたい」と隔月で開く。

の傾聴ボランティアを
始めた。上智大学グリ
ーフケア研究所で終末
期患者のケアなどを学
びながら、22年に同県
でがん哲学外来を開設。
翌年、夫の退職を機に
再び市内に移住した。
その年末に大腸がんを
発症。手術を経て、
「死と向き合って生き
る意味を実感した」と
いう。

市内でもがん哲学外
来を開きたいと、仏
教を取り入れた看護を
研究する「日本仏教看
護・ビハラー学会」Ⅱ
千葉県Ⅱ元会長の若麻
續住職に協力を依頼
し、「死への不安」な
ど根源的な問いに宗教
者として向き合いた
い」と快諾を得た。若
へ。

麻續住職は毎回参加
し、仏教の死生観など
を紹介するという。
中村さんは「まずは
安心して話せる場を作
りたい」と話してい
る。参加費は1回30
0円。申し込みは中村
さん(2522・220
ccc@nagano.cafe.
lotus@gmail.com)

長野市民新聞

3 【総合】 2025年(令和7年)5月17日(土)